

O·B会報

オ一號

横浜国立大学  
ワンダーフォーゲル部  
O·B会発行  
1963·10·30

飛驒合宿（参加の記録から）

本年度夏合宿は六つのパー  
ティーに分かれ、飛驒地域を踏  
破した。これはO·Bの井上、  
嘉納が一部参加したので之の  
感想をまとめ、後日の反省会  
に出席した松本にその様子を  
語つてもらつた。

夏合宿が八月にまわつたお  
かげで四日ばかりであつたが  
参加する事になつた。そして  
いろいろ調べた結果今年度も  
うけられた高山の本部に参加  
し、途中郡上八幡に七隊を訪  
れる事にした。

二日夜本部隊員四人と共に

出発。三日昼近く高山城山公  
園到着。テントを張つて本部  
が出来上り。土曜日でしかも  
本部として早くすませてしま  
いたい事務的な仕事は全々行  
えず。これは六日になつても  
まだ終つていなかつた。

午後は買い出しに街に出る。

地面までとゞきそうな長いの  
れんをくぶつて味噌としよう  
油を買つた時には街並の古さ  
を感じさせてくれた。夕方や

つて来たのが夕立。雨上りの  
街では盆踊りが行われていた。  
見よう見まねで何とか覚えて  
踊りの輪に入りこんで踊りだ  
したと思つたらチヨン。これ  
も大臣のせい。

四日は主将副将に本部の事  
はまかせて、一年二人と共に  
郡上八幡へ。美濃太田で乗り  
かえ。待ち合わせの時間を利  
用して通りを歩き、七隊の為  
にスイカとウリを買う。とこ

ところが八幡に行く越美南線  
は満員でスイカがつぶれはし  
ないかとヒヤヒヤ。越美南線  
にそつて流れるのが木

曾川の支流の益田川。一年生  
はこの二つの流れが同じよう

にみえたらしい。長良川の方  
がけつたりしてゐる。八幡  
に着く。駅のスピーカーから  
は有名な郡上節が流れて来る。  
それを聞いて途端に空腹を覺  
えたかホームのベンチで昼食。

あえぎあえぎ登つたところ  
に古風な城があつた。街並が  
一望。高山同様、古い屋並が  
ぎつしりつまつてた。街を二  
分して流れる吉田川は子供達  
の水泳場でにぎやか。青年団  
員とは会えたけど七隊の面々  
はまだつかず。夕方再び川を  
のぞいてみれば今度はアユつ  
りの人影ばかり。この日も來  
た夕立。その雨の中をやつと

の事で七隊の面々がやつて来

た。遅れたのでメシも食わず  
に交歓会々場の公民館に来た  
という連中に、さつそくウリ  
とスイカを出す。ところが交  
歓会の自己紹介の時に私には  
きらいなものが四つある、そ  
のオ一はこのウリ、というの  
がいるんだものいやになるよ  
まつたく。交歓会はやがて郡  
上踊りの練習所と化した。青  
年団員も楽しそうに教えてく  
れています。そしていつしか雨  
も上つていて。ひとつ踊  
れようになつたら青年団員  
と共に街中へ。一つの通りを  
仕切つて踊りは行われていた。  
輪は当然超長円形になる。こ  
の輪に入りこんでひとまわり  
したら三〇分程かゝつた。踊  
りが終ればもう一二時。テン  
トサイトは八幡から四つ先の  
美濃弓富。列車はないし車で  
行く。その乗り出のあつた事。  
着いた時まわりをみたらみん  
なねむつてた。夜食を食べて

た。

ねたのは三時。

五日一〇時起床にある子が  
七時間でこんなに長いものか  
と思わなかつたなどと言つて  
た。朝食を昼に食べて三人は  
再び高山にもどる。

夕食がすんだと思つたら四  
隊から一人やつて來た。槍、  
双六、笠をこえて無事槍見に  
下つたというニュースを持つ  
て。午前二時頃の東京に帰  
るというので一時半頃見送つ

たと思つたら金を借りるのを  
忘れたともどつて来る。汽車  
賃しか持つてないんだもの。

食費を貸してくれだつて。そ  
こで五時頃の帰らす事にな  
る。ところが横になつたら寝  
るにきまつて。この起し役  
をひきうけたのが一年。四時  
半まであきる事なく話してた。  
送り出してやつとねむりに入  
る。

六日も日が高く登つてから  
起きる。天守閣跡に登つてみ  
たが何もなし。北アルプスも  
見えなかつた。

およそ合宿とは信じられな  
いような生活と言われるかも  
しれないが、これが最初の頃  
の本部の生活である。帰る頃  
にはあちこちから便りが本部  
にやつて来だした。そしてそ  
れを他の隊に伝えるべく本部  
隊員はペンをとつていた。

#### (井上 記)

十一日夜ガラスキの、オ2  
いこまで東京出発、朝九時  
に高山に到着した。ワンゲル  
のテント村には一時にゆくこ  
とにしてそれまで市内見物を  
した。日ざしは強いのだが、  
空気が非常に乾いていて、汗  
をかゝず木蔭はすゞしい。町  
全体がととのい美しく、落ち  
つきのある通りである。あち  
こちらと一人であるきまわ  
つて、一時に城山公園のテン  
トサイトに行くと丁度これか

ら各隊の行動報告会が開かれ  
るところだつた。公民館の中  
で各隊が全部無事で行程を終  
つたのを聞いたが、全員昨日  
高山につき昨夜はゆつくりし  
たと思われたのに、やはり長  
い旅のつかれが感ぜられた、  
今回の合宿の中心が踏破と云  
うロードワークにあつたせい  
か、いつもの合宿よりもよけ  
いそう思えた。夕方から合宿  
のフィナーレ、高山市の婦人  
会とユースホステル会と共催  
するキャンプファイヤーの準備  
がはじまり巨大な薪の山が  
出来あがつた、民謡のレコード  
もそなえて日が暮れかかる  
頃キャンプファイヤーの火が  
大きく燃え上つた。高山方言  
で述べたユースホステル代表  
のおもしろいあいさつから郡  
上音頭の踊り学生の余興など  
が次々にと行なわれ、おもし  
ろい夜となつたが、キャンプ  
ファイヤーにお客様を招いた

のははじめてのことであり、今後考へるべきことも多く目についた、まず何といつても我々の準備不足であろう。人數が百五十名を越えると一つのファイヤーだけではどうしても暗いこと、我々の出し物も学生らしい工夫をこらしたものを見ておかなければ、即興のものばかりではあまりにみじめであること、お客様と我々とが一緒になるよう何らかの工夫、ともかく、内輪だけの楽しみで終るようではお客様を招いては氣の毒であると思えた。

翌日解散してから高山郷土館に立ち寄つてみたらばつたり、〇〇の石田姫に出会つた。先生方の旅行の途中とお見受けしたが、ワンゲルの大部隊に遭遇するのは恥しいと逃げてしまわれた。

(嘉納 記)

反省会があるというので、鎌倉へ嘉納顧問と出かける。凡そ四時間程意見がたゞかわされていたが、ワンゲルも何かのファイヤーだけではどうしても昔の出し物も学生らしい工夫をこらしたものを見ておかなければ、即興のものばかりではあまりにみじめであること、お客様と我々とが一緒になるよう何らかの工夫、ともかく、内輪だけの楽しみで終るようではお客様を招いては氣の毒であると思えた。

九月八日(日)現役夏合宿反省会があるというので、鎌倉へ嘉納顧問と出かける。凡そ四時間程意見がたゞかわされていたが、ワンゲルも何かのファイヤーだけではどうしても昔の出し物も学生らしい工夫をこらしたものを見ておかなければ、即興のものばかりではあまりにみじめであること、お客様と我々とが一緒になるよう何らかの工夫、ともかく、内輪だけの楽しみで終るようではお客様を招いては氣の毒であると思えた。

聞く処によると、合宿起案を目的として活動しているのか、という問題が、合宿の目的や活動内容と共に、どうしても派生して行き詰っている姿を見ると、昔も今も変わらない根本的な命題に解決の方向が得られていない一沫のわびしさと問題の深さを覚える。創立した我々の世代にあっても結局未解決に近い状態に終りを感じる次第。然し今の現役の考え方の中に、余りに頭の中だけで考え過ぎている非常

に観念的に過ぎる一面がありすぎないだろうか。統一的な綜合テーマをたてゝ、合宿に入り、終了後に我々は一体何をしてきたのかと、理論づけ大世帯になつた現在、昔と違つて昔には考えられなかつた様な問題が起つたり、又依然と変わぬ問題が論じられていたりして興味深いものがあつた。ワンゲルとは何をし、何を目的として活動しているのか、という問題が、合宿の目は露され混乱に陥つてゐる様に思われる。ワンゲルは以前から討論下手であり、一部の幹部の発言に振り廻され、後は何となくついていくだけの有象無象が多かつたと思われる、自分の意見をよくまとめて発表する能力をつけること

ルには、この様な国民的欠陥を矯正する事は大きなワンゲルの目的の一面であることを忘れてはならない。何時も座つたまゝで発言しようともしない部員には大いなる反省を促すと共に、意見をもたない者は去れといえるのではないか。

何か現役への苦言に近い内容になつたが、反省会終了後鎌倉駅前の「扉」で所場の人達と、とりとめのない雑談に近い話をしている内に意外に楽しい時間を過せた。ワンゲルの活動の話、〇B会はどうあるべきか、会社の話、人の尊等をしている内に、各々考え方を述べられる事があつた。若々しく自分を疎外しないで、伸びと過せる学生生活の話を聞く内に、何となく楽しさを持てるのは素晴らしいことだ。現役の方からも年に一度位企画して〇B会の接触を

図る集まりを持つのはどうで

あろうか。OB会自体にも、

その活動を如何にすべきか、

今度の総会で将来の方向を定

める必要があるが、ともかく

も良い友人の集まりである。

OB会をよくする様にもつてい

きたいものだ。殊に顔も名前

もよくしらない世代の人達が、

どん／＼とOB会へ入会する

様になつた一つの転機を考え

させられる反省会の一日であ

つた。

(松本 記)

## 高峯高原スキー

(オ二期生)

日時 四月二十・二十一日

場所 高峯高原・高峯高原ホ

テル

参加者 岩上・岩村・倉田・

藤林・吉野

後記 少々シーズンをはずれ

ているような気もしたが皆の

熱心な希望により、かねてよ

り一度は訪れてみたいと思つ

ていた高峯高原にてオ二期生

希望者によるスキーワンダリ

ングを行つた。事前に再度問

い合わせをして雪の有無、リ

フトの運転状況等を確めてお

いたにもかかわらず、現地に

着いてみて驚いたことには、

広々としたスキー場に熊笹が

顔を見せ雪のある部分の方が

少ないという有様、むろんリ

フトも動いていない。ハテ困

つたといつても折角来たもの

を今更帰るわけにも行かない

し、のどかな所も又一興だろ  
うということになり、その一  
部の雪の上で滑り始めた。滑

つてみると結構楽しいもので、  
シーズン中の混雑したスキ場  
と比べるとまるで夢みたいた

話である。つまり、初日の二  
日は私達のグループだけで、  
自由に滑り、そして転ぶこと  
ができた。リフトも動いてい  
ないから必らず歩いて登らね  
ばならない。嘉納先輩の精神  
が生かされているようで全く

愉快であつた。

宿は国民宿舎高峯高原ホテ  
ル、余り空いているので気持  
が悪いくらいであった。

翌二十一日は日曜日、一番

一、三七・十一・三

（オ一期）現

役への顧問就任承認。OB

会会報発行承認（各年代廻  
り持ち）OB会規約承認

後日配布の事。会員徵収方  
法は各年代幹事會仕徴取方  
法を採用する。

（オ一期）現

役への顧問就任承認。OB

会会報発行承認（各年代廻  
り持ち）OB会規約承認

後日配布の事。会員徵収方  
法は各年代幹事會仕徴取方  
法を採用する。</

決定をする。

○B会合を次の様に定期的に行う。

三月 ○B会新入会員決定。

懇談。現役総会に出席。

七月 夏期懇談会を行ない、

夏季合宿の話を現役から、

そして○B討志の夏期休暇

を相談をとりまとめる。

十一月 大学祭総会・会計

報告や年間行事計画を立て、

現役追り出しコンペ打合せを行なう。

一、十二月 忘年会と共に、  
スキーハイ等の打合せ会にする。

七月、十二月は各年代が持ち廻り幹事で行なう。尚この日にはオ三期○B会員二十名の入会が決定した。その後横浜駅ビルで夕食会を行なう。

## 一、三八・七・十六

### Y M C A 食堂

オ一期桑原氏幹事で、先の決定に基づきコンバを開く。

出席者、嘉納、松本、河野、

桑原、吉野、塚原、藤林、

岩上、荻野、倉田、氏平、

齊藤、三神、井上、白井、

江崎、栗田、石田、横手、

井田、甘柏、以上二二名。

現役齊藤外三名。

久し振りに、会いオ三期生  
かつての山男、山女が新会  
人らしくなり驚する。

### 会 計

三八・一〇・三〇現在

寄 附 10名(オ1期生)

現役へ○ワカ-2台購買(横浜双葉家具)

会 費 10名分 (現役へ金額補助)

### 報 告

#### 2. 1962年度

オ1期生 5名 (10名)  
オ2期生 12名 (12名)

計

#### 3. 1963年度

オ1期生 3名 (12名) [桑原・河野入会]  
オ2期生 12名 (12名)  
オ3期生 20名 (20名)

計

## 収入総計

支出 38.7.16 コンバ 現役半額補助分

(4名)

従つて現在在高

三菱町支店預入

## 編集後記

左検討を加える時期に到つて  
いると思われる会員諸氏の協  
力を頼り次第である。

完

- 総会で本紙発刊が決められ  
たのは、もう一年も前のこと  
で、かくもオ一號の発刊が遅  
れることをまずもつてお詫び  
申し上げたい。
- 今回は夏合宿のことが多く  
なつてしまつたが、今後、O  
B会自体の活動も活発にし、  
そうしたことを中心に編集し  
たいと考えている。なお、編  
集の方法、発刊の時期等につ  
いて、来る総会でご相談申し  
上げたく思つてゐるが、特に  
地方の方には、ご意見をへが  
キなどで伝え願えれば幸であ  
る。
- ワンドーフォーゲル自身、  
転換期をむかえている今日、  
我々OB会も、これから先の  
基本的な問題について、十分  
つかつた。

### 追記

十二月七日八日と恒例の四

年生追い出しコンバが丹沢山  
麓青山荘に於て行なわれた。

O Bで参加したのは松本、田  
上、嘉納。二期生は斎藤一人  
だけ、三期はなるばる四日市  
から金田、静岡から高橋と色  
の黒いのはやはりタフだ、特  
に高橋は雪の富士に登つて來  
たばかりと云う。

井田、白井、江崎、若い女性

の友井上、O Bの方にはすべ  
てすばらしいペアを得て土、  
日などはデートに忙しく、ワ  
ンゲルどころではないと疑わ  
れるほど一人もおいででなか  
が話し合われた。

完

### 続々追記

十一月三日大学祭の際鎌倉  
の寿司屋にて秋期総会が開か  
れ、O B会の将来の問題など  
が話し合われた。

余興の部では例の嘉納節で「大  
きく大きくなあれ」とか「ど  
ろごろごろごろやきいもごろ  
ごろ大變あついよあいよ」な  
どと云う幼児体操を全員でや  
りカツサイをはくした。